

結婚・家族のカタチ in the world

2019年11月24日

	国	結婚はすべき？ 個人的見解も可	独身でいることはどう 思われるか？	入籍しない事実婚は 認められるか？	行政は結婚支援を 行っているか？ どう思うか？	結婚相手の条件は？	ビジネスとしての結婚 相談所の存在は？	国際結婚の割合は 日本より多い？	同性婚は法律で 認められている？ LGBTはどう考え られているか？	少子化問題は あるか？	日本と違いを感じる ことは？
1	バングラ デシュ	YES 公私ともにすべき との認識	独身のままでいる人は ほぼ無い 99.9%結婚	NO イスラム圏なので 認められない	NO 親の意見を取り入れて 自分で探したり、親戚や 友達が紹介してくれる	人それぞれ	YES/NO 会社はないが、仲人を やっている人はいる	NO めったにいない	NO LGBTの人々は 抑圧されている 同性愛者は刑法に より終身刑になる	NO	バングラデシュの方 が家族などのサポー トが多い
2	ドイツ	YES/NO	結婚しなくても 良いと思う人が 増加傾向	結婚という形に とらわれない傾向	NO 自分たちで探す 税金を使った行政支援 は反対されるはず	性格や容姿、 趣味など	YES/NO 国際結婚の場合などで 一部ある	YES 日本の3倍くらいは あるのでは？	YES 認められてきている	YES/NO 徐々に子どもの数 は増えている	日本と一緒に生活を する時間が少ない
3	モザン ビーク	YES/NO	一般的に家族のために 結婚を選択する	子どもが生まれてか ら正式に結婚する カップルも多くいる	NO 教会や学校などで出会う	フィーリングが大切だが、 40代くらいになると ステータスやお金を重視 することもある	NO きいたことがない		NO 1~5%程度の少数 の人は認めている	NO 特に農村では 増えている	モザンビークでは 外食はあまりない
4	ペルー	YES 一般的には すべきと 思われている	田舎：同居でも可 (結婚という形に こだわらない) 都会：当然結婚すると 思われている		NO 結婚手続きに予約が必要 で、行政が逆に結婚を 面倒にしている	若い人は気持ちを優先し、 年齢があがるにつれ、お金 を重視する傾向			NO 都会の方では理解 する人はいる	NO	ペルーでは結婚の 登録に時間がかかる 夫婦のお金は男性が 100%管理している
5	韓国	YES 親の安心のため 結婚、同時に 親の責務終了	(40歳くらいの場合) 本人に仕事や経済力が あれば鷹揚、そうで ない場合は独身状態に 対して肩身が狭い	状況に応じ認められ る 場合も有る (再婚の場合など)	NO 結婚相談の会社を支援 することはある	経済力と性格は大切 ただし性格よりも経済力を 重視した場合の方が逆の 場合よりも離婚する可能性 が高い	YES 会員制でレベル (値段)に応じて様々 な会社が存在する	YES 海外から来る労働者 が増加しているため	NO マスコミが取り 上げ、理解が広がり つつある	YES 少子化は深刻	家族の行事(誕生日、 記念日、法事など)を韓国では大切 にする
6	ウズベキ スタン	YES	田舎：早く結婚をする ようせっつく 都会：そうでもない	YES/NO 田舎では同棲=結婚 都会は同棲→結婚で も良い傾向	NO	家柄や地位などをもとに 仲人が話を持ってくる。 その後デートをし、お互い 気に入ったら健康診断を して全身をチェックする。 診断結果を見せ合い、納得 した上で結婚			NO 国として人口を 増やすために認めて いない	NO	結婚式がとても豪華 登録してから式まで 1カ月の考える時間 がある 結婚式にかかる費用 は親が全部用意する